

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2018/4/21、5/26 実施)～

2018年4月21日参加者: 5名



アシ(ヨシ)はこれから

カワジシャ、ウシハコベ、ハコベ、オニタビラコ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、カラスノエンドウ、ヤエムグラ、ムラサキケマン、オニタビラコ、カキドオシ、オランダミミナグサ、イヌガラシ、ハルジオンなど咲いている。どれも成長がいちじるしく葉も随分大きいものが多い。遊歩道際にもカワジシャが見られるようになったのはうれしい。

先月と同様、ホオジロの鳴き声が聞こえる。やはり川向うの木の枝にとまっていた。先月よりさえずりはかなり上手になっていた。仲間にアピールできたかな？

池のアシ、マコモ、かなり伸びてきた。アシの背丈はまだ向こうが見通せるくらいだが夏の背丈を想像するとその成長の速さには驚く。



環境省指定準絶滅危惧種のカワジシャ



初観察?オオジシバリ

タネツケバナは間に隠れてひそやかだ。先月は芽をだしたばかりのカナムグラだったが、今日はもう、しっかりツルをのぼして他の草にからみついている。田んぼの畦にはムラサキサギゴケ、タガラシ、ケキツネボタン、ヘビイチゴ、ノミノフスマなどが咲き乱れている。タンポポに交じってオオジシバリも咲いていた。ここでのオオジシバリは初めての観察か？

アリアケスミレも花盛り、そばにはチガヤ、ヤワラスゲも。またノジシャ、ノゲシ、オキノゲシ、キュウリグサも観察。

時々カルガモが賑やかな音をたてて着水する。草の間でのんびり餌をついばみだした。ムクドリがキュルキュルととびかい、ハシボソカラスものんびりお散歩。空をみあげればツバメも高いところをとんでいた。鳥は他にシジュウカラ、アオサギを見る。カワラヒワは声のみ。



毎年咲くのが楽しみなアリアケスミレ



コナラの幹に集まるヨコヅナサシガメ

チョウの間ではベニシジミ、ヤマトシジミ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハなど。冬の間に見られたヨコヅナサシガメは成虫になったのか、黒白のシックなものにまじって赤いおしゃれなものまでがコナラの幹に並んでいた。

フジ、ミズキ、広場のキリも花盛り。イヌザクラもめだたないが花盛り。カエデのトンボが赤くてかわいらしい。

4月なのにもう5月かと思わせるような植物の様子。予報では今日も夏日だという。これからの季節はいったいどうなるのだろうか。



小さいけれど堂々と咲くノミノフスマ



花盛りの畦



一面に穂を出すチガヤ

それほど陽ざしはきつなく、心地よい風がふく。

入口近くにあるトウカエデが種子をたくさんつけているのを見る。ちぎって飛ばしてみたが飛ばずにすぐ落ちてしまう。まだ水分を多く含んでおり重いからだろうか。

生垣のイヌマキにもオバナがびっしりついている。雌雄別株とのことで、この生垣は雄株ばかりのようだった。メバナはめだたないが変わった形をしているとのこと、見てみたいものだ。

今日見られた花はコヒルガオ、ドクダミ、オニタビラコ、ノゲシ、コモチマンネングサ、カワジシャ、イヌガラシ、ケキツネノボタン、トキワハゼ、ウシハコベなど。そして目立たないがアレチノギシギシ、オヤブジラミ（すでに種）ヒエガエリ、クサイ、マスクサ、カモジグサ、イ、コゴメイ、クサヨシなども花をつけていた。ヒエガエリの穂は最初茶色の穂だが、だんだんと緑色に変化して開いていくようで、その過程がよくわかった。湿地のなかのヨシにまじってスックとたつくサヨシは穂の形はヒエガエリに似ているが、比べてみると姿はスマートでこちらの方がカッコいいように思う。（勝手に比較しているのだけれど。）



ミクリも開花



最高のおやつ、モミジイチゴ

シロバナサクラタデ（葉）の群れにはツルマメのつるがからんでいる。そのなかにアゼナルコ、ミコシガヤ、カズノコグサが見られた。この時期の根本内の代表的な存在だ。ヨシのむれのなかではフトイ、ヤガミスゲも花をつけている。フトイはヨシの勢いにも負けず株を増やしているようだ。

ヘビイチゴの赤い実はあちらこちらに見られた。おいしそうだがこれは口には入れたくない。じっと我慢。そして最後に広場に上がってさあおやつの時間とばかりモミジイチゴの実をつまんだ。

ニワトコもたくさん赤い実をつけていたが、これはどんな味？なんてながめていたら、なんとニワトコの枝にヘビの抜け殻がからまっているのを発見。1.2メートルくらいはあるだろうか。枝にからまってスル〜と抜けていった様子がわかり、ちょっと背中がゾ〜ッとした。最初にキショウブ池のあたりでザリガニ釣りをしている子供達がヘビだ〜とさげんでおり、活躍する季節だなと感じていたが、最後のハイライトで全身のヘビ衣装におめにかかるとは、、、、これだから自然観察はおもしろい。



赤い実をつけたニワトコ



ニワトコにからまった
ヘビの抜け殻

ナガサキアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ナミアゲハ、シオカラトンボ、ツマグロヒョウモン？ヤマトシジミ、ベニシジミ。ハシボソカラス、ムクドリ、シジュウカラ、ヤマガラなども観察。



長い！

6月の湿地の観察会は、、、

6月23日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。
お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2018/6/23 実施)～

参加者:7名



ムラサキエノコロ?

マコモの花がめだつようになった。ミクリは花と実。ネズミモチの木も花をつけている。コヒルガオ、ムラサキツメクサ、ドクダミ、オニタビラコ、ヒメジョオン、ヨウシュヤマゴボウ、イヌガラシ、ハキダメギクそしてハンゲショウの白い葉もよくめだつ。ソクズも白い花をつけた。先月のヒエガエリの穂はすでに茶色になっている。コウガイゼキショウの目立たない花を虫メガネでよくみると白いブラシと黄色いオシベが観察できた。

空もあたりの空気も薄グレー色にしっとりつつまれている。天気予報は午後から雨だと告げている。森からはウグイスのさえずりが聞こえる。

夏に向かってしっかりと伸びている緑のなかに、ザリガニ釣りの家族がたくさん集まっているようだ。

エノコログサ、緑色の穂に交じって一

株、ムラサキがかったものが目につく。葉にも紫色が混じっている。これはムラサキエノコロなのか。



ハグロトンボを捕まえて観察



脚のギザギザは何のため?

藪のなかでは今年もハグロトンボが沢山舞っている。ミゾソバ、ヤブミョウガ、イノコヅチ、カラスウリなどの葉が生い茂るなかをすすんでいくと、すでに小さな花をつけているミゾソバをみつけた。コナラの幹にヒメジャノメか?茶色のチョウチョが沢山とまっていた。

幹からは樹液が出ているのだろう。そばにはヨコヅナサシガメもいた。

生い茂る草の間にナガコガネグモが巣をかけている。まだ体のちいさいものが多いが、カクレオビをちゃんと準備している。ショウリョウバッタ、カマキリなど虫たちも小さいものが多い。参加者の一人の4歳のブンちゃんはショウリョウバッタをつかまえた。小型のアカガエルも泳いでいた。

フェンス沿いでは大きなコガネグモがお食事中。食べているのは糸でぐるぐる巻きにしたチョウだろうか？ナガコガネグモは湿地に多いが、コガネグモは陸にもいて、虫の多い良い環境の場所にしかいないと聞く。根木内は国道6号のすぐ横だが、良い環境なのだろう。



2本の黄色い縞模様が特徴のコガネグモ



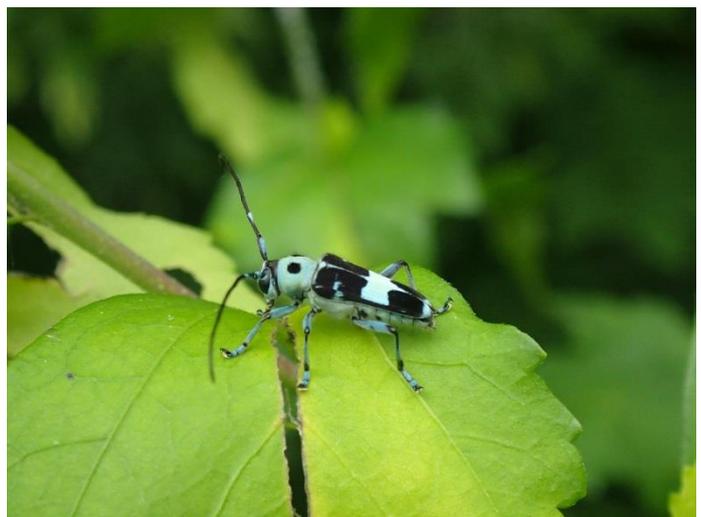
今年生まれ？ニホンアカガエル

田んぼの稲はしっかり育っており、その間を水草とアゼナがびっしり覆っている。田の草取りは大変だ。アゼナは葉に鋸歯はみられず、アメリカアゼナではないだろう。

コブナグサ、イボクサ、タコノアシ、アキノノゲシ（いずれも葉）ミコシガヤ、アゼナルコ、クサヨシ、ハマスゲ、クサイ、イ、コゴメイ、ヒメガマ、オカトラノオ。ヒメガマは穂になる部分の上にオバナがついていた。トキワハゼの花とムラサキサギゴケがならんでいたので両者のちがいがよくわかった。けれどもまた別の場所で見るとどちらかと迷うのだろうか。

ヤマトシジミ、ベニシジミ、オオシオカラ、シオカラ、ノシメトンボ、ナガサキアゲハ、カノコガなど。

広場のムクゲで昨年見た虫を捜す。ラミーカミキリだ。今年はいないのかなと思っていたら、いたいた。今年もブルーのきれいな色をしたラミー君。すぐにとんでいってしまったけれど。この外来の虫はいったいどこからやってきたのだろうか。



ラミーカミキリを発見

キリはたくさん実をつけていた。エゴの木も実、そしてバナナの様になったムシゴブも発見。中を見ると羽のある小さな黒い虫がうようよいた。この虫はエゴノネコアシアブラムシというようで、初夏にエゴノキの実から出てイネ科のアシボソまで飛んでいき、秋にまたエゴノキに戻ってくるとい生活を送っているらしい。この虫と春にみられるオトシブミの虫との関係はどうなのかしら？というところで雨が降り出し、今日の観察会はおしまいにした。



普通は丸いエゴの実



エゴノネコアシアブラムシの虫こぶ

7月の湿地の観察会は、、、

7月28日(土)

9:30 駐車場集合 (小雨決行) です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com (相澤)

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2018/8/4 実施)～

参加者: 3名

先週は雨で観察会はお休みにしたので今日は7月8月合わせての観察会だが、連日の猛暑。どうなることやらと、少々案じながらのスタートとなった。池のアシはいつもなら3mくらいにのびているのに、今年はそんなに高くはなく、元気もないような感じだ。

アブラゼミ、そして時々ミンミンゼミ、合わせてウシガエルの伴奏。BGMはにぎやかだ。セミのぬけがらはいたるところで見られる。一枚の葉に二つもぬけがらがついていたり、柵にはったロープに行儀よくぶら下がっていたり、さまざまだ。



アベリアの蜜を吸うイチモンジセセリ

生い茂った草むらにはバッタやイナゴが飛び交っている。この暑さのなかでも虫は元気だ。アッ！ギンヤンマ。つがいで水の上を飛んで、その後産卵しているようだった。緑と青の体があざやかだ。シオカラトンボ、真っ赤なショウジョウトンボもやってきた。ハグロトンボは前回に比べたら数は減っていた。オオシオカラ、ノシメトンボ、ナツアカネ？オニヤンマ。オニヤンマはかなり高いところまで上がってしまった。チョウではオレンジ色が鮮やかなツマグロヒョウモン、イチモンジセセリ、キアゲハ、モンキチョウ、ナミアゲハ、コムスジ、アオスジアゲハ、アカホシゴマダラ、ベニシジミ、ヤマトシジミ。そしてクモでは巣に獲物をかけてお食事中的のナガコガネグモ、ジョロウグモ、イオウイロハリグモなどが次々に現れ、目を楽しませてくれた。



イネ科が好物のホソハリカメムシ



お食事中的のナガコガネグモ



イネの間に生えるタマガヤツリ

アオミズ（葉）ツユクサ、コヒルガオ、ヨウシュヤマゴボウ、ヤブミユウガ、セリ、ハキダメギク、オオニシキソウ、イノコヅチ（いずれも花）ノブドウ（花と実、アリも寄っており、ソクズと似ている）ケイヌビエ、マツカサススキ、アゼガヤツリ、ヒメクグ、ミコシガヤ、ヒメガマ、コウガイゼキショウ、アゼガヤツリ、カヤツリグサなども今はさかりといった感じ。ツルマメはシロバナサクラタデの群れのあたりに大いに勢力をのびしている。

カントウヨメナが茂る草の中で一輪咲いていて美しい。

田んぼの稲は花が、そして「もう実もついている」と見ていたら、稲の間にタマガヤツリを見つけた。チョウジタデ、ヒレタゴボウ、アゼナなども一緒に育っている。「お米を育てるためにはこれらはじゃまなんだよね、植物観察には楽しいけれど」と話す。

ヒメジソ、タカサブロウ、コブナグサ、タコノアシはまだ花はついていなかった。イボクサも葉のみ確認。暑い中でイボクサの花を見つけるとうれしいのだが残念だ。



まだ実が白いノブドウ



色づいてきたヤマボウシ

コナラの木には、すでにしっかりしたドングリがついていた。広場のヤマボウシの実が色づいている。一本のムクノキの葉がなぜか茶色に変色している。人間だけじゃなくこの暑さは植物にも大変なのだろう。

最後に、せみ時雨のなかにツクツクボウシの声が混じっているのを聞く。まだまだこの猛暑は続くようで、秋が近くにきているとは言い難いが。

9月の湿地の観察会は、、、

9月15日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2018/9/24 実施)～

参加者: 6名

昨日の雨は上がったようだが、空はまだ雲が覆っている。時おり雨が落ちてくるが、それほどひどい雨にはならなかった。

天気のせいかな？虫が少ないように感じるなかで、草むらにはオンブバッタがたくさん飛びかっていた。キチキチと音をたてるショウリョウバッタはいなかったように思う。



オンブバッタは親子ではなく夫婦



水面に浮く草につかまったギンヤンマ

空が少し明るくなってきたらセミがなきだした。ツクツクボウシやアブラゼミだが、鳴き方がなんとなくくたびれた鳴き方のようだ。暑かった夏もようやく終わりを上げるのか。昨日の気温は雨のため20℃以下だったが、今日は少し蒸し暑い。アオドウカネかと思われた甲虫はサクラコガネか？また草むらに赤い虫を見つけ、図鑑で調べる。ヒメホシカメムシかな？いやオオホシカメムシだということになった。さて？

他にコバネイナゴ、シオカラトンボ、ギンヤンマ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ハラビロカミキリ、ツマグロオオヨコバイ、ナガコガネグモ、イオウヒロハシリグモ。そしてジョロウグモはいたるところに巣をかけているが、体はまだ小さかった。アマガエルの今年生まれたばかりの小さいのを見かける。花をつけたクズの葉にはオジロアシナガゾウムシがいた。まるでフンがおちているみたいだ。



色々と検討した結果オオホシカメムシと断定



分布を広げたシロバナサクラタデ

ミゾソバは花をつけ始めた。これからの季節の花だ。シロバナサクラタデ、ポントクタデ、ツルマメ、ヤブミョウガ、タカサブロウ、キツネノマゴは花の盛り。同じつるでもヤブマメの花はまだのようだ。草を刈ったあとではイボクサが小さな花をつけており、あちらでもこちらでもイボクサを見ることができたのはラッキーだった。



写真撮るのが難しいポントクタデ



ミゾソバもタデ科です



種子ができ始めているオオイヌタデ



真っ赤なミズヒキもタデ科

ヌマガヤツリ、ヒメサルダヒコも数か所で見られ数が増えたのか。ヒメクグ、アゼガヤツリ、クサイ、イヌビエ、ケイヌビエ、マツカサススキ、チョウジタデ、タコノアシ、アオミズ、オオイヌタデ、イヌタデ、ミズヒキ、クワクサ、ヒヨドリジョウゴ、ヒレタゴボウ、ヒメジオン、ワレモコウ、ゲンノショウコ、ヤブガラシ、ヒナタイノコズチ、ヒカゲイノコズチ、キンエノコロ、ハキダメギク、メヒシバなども観察。



ふさふさの毛のケイヌビエ



カナムグラの雄花

アキノノゲシは毎年同じ場所で花を見かける。アカバナの咲くあたりは生い茂る草で近づけなかった。ノブドウ、ヨウシュヤマゴボウ、ジュズダマは結実。池のなかでアシは密集しているが、なんとなくごちゃごちゃしておりいつもの夏のように元気がない。刈られたマコモはまた花をつけていた。ヒメガマは穂。やぶのなかで元気なのはカナムグラ。あちこちを覆ってオバナがめだちメバナもすでに実をつけている。とげに気をつけながらかきわけてすすんだ。これはやっかいな草だ。

湿気が多いせいか木の幹にはカタツムリが悠々と進んでいる。やっと涼しくなったので、秋を期待したが、今、あき！は始まったばかり。ヒメジソの花やコブナグサの穂はまだ見られなかったがそろそろ出そろそろ頃だ。



悠々と進むカタツムリ



大きな花を咲かせていたクズ



又マガヤツリがたくさん見られた

10月の湿地の観察会は、、、

10月21日（日）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。
お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）